

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原料料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロスリジウム ム感染	第55回日本感染症 学会東日本地方会 総会 2006年10月 26-27日 016	胸部打撲後、心肺停止、混合性アシドーシス、胸部筋組織の破壊を伴う著明な気腫などを呈し、死亡した58歳男性の、死亡直前に採取された皮下気腫穿刺液を調べたところ、多数の偏性嫌気性有芽胞グラム陽性桿菌が検出された。RNA遺伝子解析の結果、Clostridium chauvoeiと同定された。本菌は複数の同定キットでは明らかにできなかった。本菌は獣医学領域の病原菌として知られているが、ヒト感染症からの分離は初めてである。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2006年11月29 日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂取したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生学的調査により、米国住民へ伝播の危険はないと同定された。
												ウエストナイル ウイルス	El Tribuno Salta 2006年12月27日	アルゼンチン国内で初のウエストナイルウイルス感染例が確認された。コルドバ州で1件、チャコ州で3件あり、感染者10名のうち2名がウエストナイル熱を発症する可能性がある。コルドバ州での患者はここ数年、海外への渡航歴はないことから、地元において感染したものと推測される。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	HPA/Health Protection Report 1(3) 2007年1月19 日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。まだ生存している。
												チクングニヤウ イルス感染	毎日新聞 2007年1 月24日 東京夕刊	厚生労働省は24日、スリランカから帰国した30歳の女性、チクングニヤ熱に感染していたと発表した。国内で日本人の感染が確認されたのは初めてである。この女性、昨年11月中旬、スリランカで発熱し、現地でチクングニヤ熱かデング熱と診断された。女性はずでに症状は回復し、在住するスリランカに戻っている。